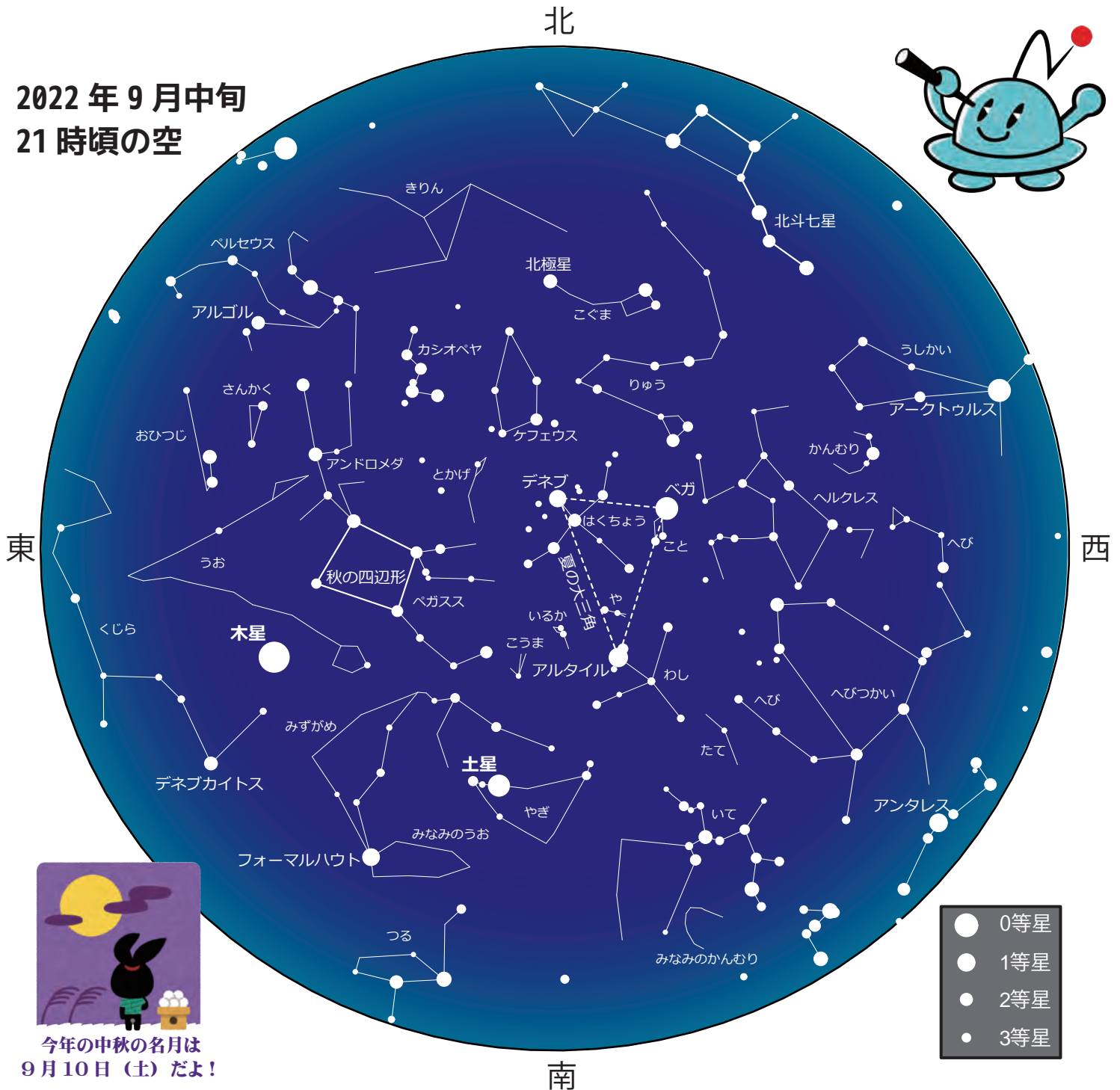


阿南市科学センター

9月の星空案内

2022年9月中旬
21時頃の空



今年の中秋の名月は
9月10日(土)だよ!

9月に入り東よりの空には秋の星座が昇ってきました。ペガサス座の胴体部分にあたる4つの星の並びは、「秋の四辺形」と呼ばれ、秋の星々を探す目印になっています。秋の四辺形の西側の辺を南東の地上のほうへ延ばせば、秋の唯一の1等星「フォーマルハウト」(みなみのうお座)が見つかります。さらに、四辺形の東側の辺を同じように延ばせば、「デネブカイトス」(くじら座)という2等星が見つかります。今年は秋の四辺形とデネブカイトスの間に約-2.9等の明るさの木星が位置し、その強い輝きに目を奪われることでしょう。南よりの空には約0.4等の土星が輝き、秋の夜長に太陽系の2大惑星を探してみるのはいかがでしょうか。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

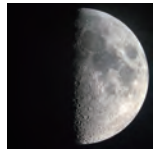
9月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
4日



満月
10日



上弦
18日



新月
26日

9月の天体観望会で月が見える日時は？



9/3(土) 19時, 20時の回で観察可

9/10(土)は科学センターで中秋の名月の観察会を行う予定! 詳しくはホームページを見てね☆

水星：9月23日に内合。観察は難しい。

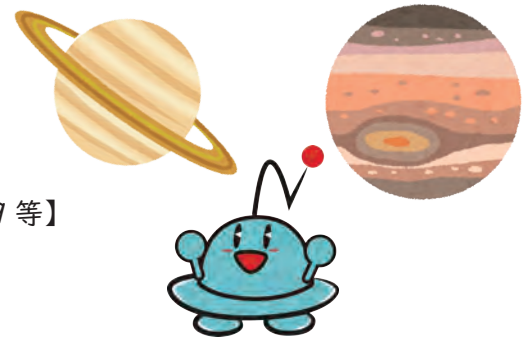
金星：夜明け前、東のごく空で見える（明けの明星）。【約-3.9等】

火星：夜半前に東の空から昇る。【約-0.3等】

木星：宵の口、東寄りの空に昇り、夜9時には見やすい高度に。【約-2.9等】

土星：宵の口から南東寄りの空で見え観察しやすい。【約0.4等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさとなる。



注目の天文現象など

【土星の環の傾きにご注目！】

9月に入り土星が観察しやすくなってきました。土星は地球と同じく惑星の仲間、太陽の周囲を公転する天体です。土星の公転周期は約30年になり、その動きにあわせて年々環（わ）の見え方が変化することが知られています。土星の環は公転面に対して約27°傾いているため、図1のように年によって地球から観察すると環の傾きが変わります。2017年頃は最も傾いた（開いた）状態で見えていましたが、2025年頃には環を真横から見ることになるため、環が消失したように見えることになります。

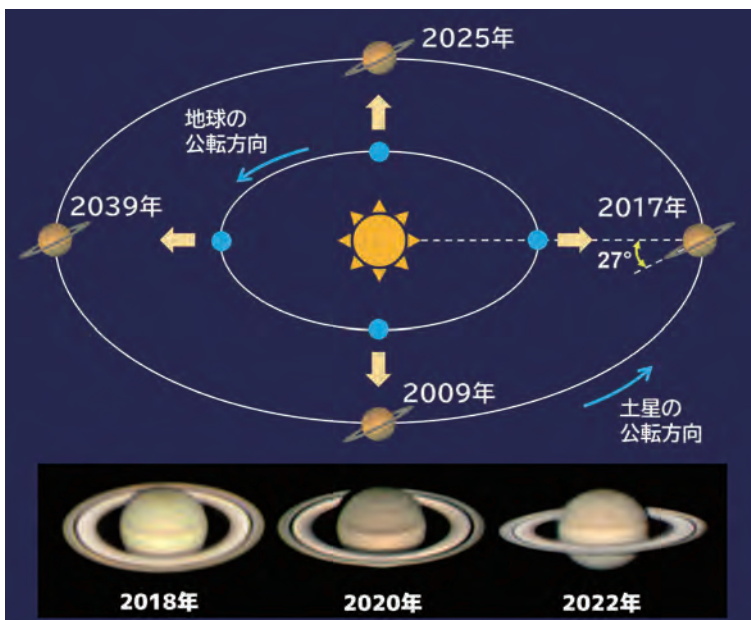


図1：土星の環の傾きの変化について
(作図：阿南市科学センター)



図2：中秋の名月（2020年10月1日）

【秋のお月見を楽しもう】

今年は9月10日が「中秋の名月」にあたります。中秋の名月とは、旧暦の8月15日の夜（十五夜）に見られる月のことを言います。旧暦は今から約150年前まで日本で使われていたカレンダー（暦）の仕組みのことで、昔は月の満ち欠けからカレンダーを作っていました。なお、お月見のときに里芋をお供えして秋の実りに感謝するという風習があります。そのため、中秋の名月を「芋名月（いもめいげつ）」と呼ぶことがあります。さらに中秋の名月から約1か月後の十三夜（満月の少し前）に行うお月見は、お供えに栗を用いたことから「栗名月（くりめいげつ）」とも呼ばれています（今年は10月8日）。